

# 来賓祝辞

上越市長

## 木浦正幸

皆様方、こんにちは。ただいまご紹介にあずかりました、上越市長を務めております木浦正幸でございます。理事会には何度か出席させていただきましたが、総会には初めてということ、若干、自己紹介をさせていただければ幸いかと思っております。

昭和二十七年生まれで、ちょうど五十になつたばかりでございます。直江津高校、日大出身でございます。住まいは直江津地区の国道8号線沿いにございます。

活動としては、青年会議所活動を十三年間ずっとやっております。そして一番最後に、北陸信越の六千五百名の会長に就任させていただきました。ちょうどその時に、前の県会議員でおられました古川渉先生がお亡くなりになりまして、青年会議所の会員の時に上越市の県議に当選し、三期務めさせていただきました。そして、十三年の十月の選挙で市長に就任させて

いただいたわけでございます。

職業と申しますか、保育園の園長を務めておりました。そういう意味では、普通の庶民として市長に就任いたしました。生活者の視点で市政を変えていきたいということで立候補しまして、当選をさせていただいたわけでありませう。

以来、一年半、市長に就任しておりますけれども、県議とは違ひまして、なかなか充電の期間がないということを感じております。

時代が二十一世紀に入りまして三年経つていまずけれども、やはり、時代が変わってきているということをお市民の皆さんにお伝えしながら、「主役は市民である」という市民中心、市民本位の市政を展開していきたいということで、スタートを切らせていただきました。

さて、今日は一年に一回の総会ということで盛會を心からお喜び申し上げる次第でございます。今年の四月十一日に、ふるさと交流会で二



十数名の方が高田の観桜会においてになりました。私もその会に出席させていただきました。おかげさまで観桜会も、近年、大勢の人においていただいております。とりわけ今回につきましては、善光寺のご開帳の時期とちょうど重なりまして、七十六万人の観光客を数えることになりました。富山や金沢、関西方面からもバスで大勢の方においていただきました。観光バスが一〇三台という、いまだかつてない大変な賑わいでございます。今後とも、上越の個性・特性を活かした地域づくり、まちづくりにぜひ力を入れて参りたいと思っております。

最近の大きな動きといたしましては、市町村合併でございます。おかげさまで、現在は任意合併協議会をいったん終了し、法定合併協議会に進む準備会ということで、その準備会を開催し



ております。

十四市町村ということでその内訳を申し上げますと、東頸城からは四市町村。松代町・松之山町は十日町との合併を協議されています。中頸城郡からは妙高村・妙高高原町を除いて、八町村。そして西頸城郡からは名立町。これらと上越市を合わせて十四市町村になります。

人口に関しては、現在の上越市の人口は十三万五千人でございますが、これがめでたく合併となりますと、1.6倍の二十一万千八百七十

人ということで、いよいよ二十万人を突破いたします。面積で申しますと、今の<sup>3.9倍</sup>、24.9・3平方キロメートルが972・63平方キロメートルということで、全国的にも大変大きな面積を所有する都市となります。

合併方式につきましては編入ということで、十三町村が上越市に行政サービスを合わせていただくというやり方でございます。

今のところ、平成十七年の一月一日を目標にしながら合併しようということに決まっております。

それから、今まではどちらかと言いますと、この中山間地域はコストがかかって、お荷物であるというような言い方がされておりました。しかし、21世紀はそうではなくて、この森林資源、山間地を宝物にしていかなければならないということで、私も提案させていただいております。

つまり、森林の保水能力です。上越地域は全国にも大変珍しい、飲み水が足りない地域でございます。平成六年の渇水期には、市民の皆さんに大変ご難儀をおかけいたしました。そういう意味で、森林資源に手を加えて、今の針葉樹を中心のものを落葉樹や広葉樹に植え替えることによって、保水能力を高めていく。そうして、森林をもう一度立ち直らせていくということでございます。

また、CO<sub>2</sub>の排出削減、これも叫ばれております。京都議定書の約束でございますと、もはやCO<sub>2</sub>の

排出削減が売買されるような時代になっておりますから、ぜひそういった意味で、森林や水、これを資源として活かしていきたいと私は提案をしております。

また、先ほども会長からお話ございましたように、現在、経済状況がなかなか厳しいわけでございます。自治体としてもまったく同じ状況で、そういう意味では、もう一度原点に立ち返る、つまり産業振興が重要となつてきます。それぞれの中小企業の会社の皆さん、民間の会社の皆さんに、しっかりとお金儲けをしていただけるような、そういう産業振興を通して、民間の方々が投資しやすいような環境を役所がつくっていく。このことによつて、経済活動が盛んになっていくようにということを前面に打ち出しまして、自主財源を作っていくことが重要でございます。

今、小泉改革が叫ばれておりますけれども、実質といたしましては、権限は委譲されております。



すが、財源が一緒ではないということから、地方自治体が自治体運営をしていくには、大変厳しい状態でございます。やはり自分で稼げる財源、つまり自主財源をしっかり確保できるようなしなかけ・仕組み、これをとっていかなければ、持続して発展するような自治体運営はできないということから、産業振興を一番の大きな柱にさせていただいて、この行政が民間の方々を支援していくということで頑張らせていただいております。

その中で水素ガス、燃料電池のことは皆さんご存知でいらつしやいますが、水素ガスを木屑や廃材から抽出いたしました、燃料電池にしていこうということで、商工会議所青年部がそのバイオマス研究をたちあげて頑張つていこうという状況です。

今年一月にアイスランドの首相が来日されました時に、私も寄せていただきました。現在、アイスランドも国を上げて、水素ガス、燃料電池の研究をしております。そこで、上越が手を上げて、大変タイミングがよかったです。アイスランドとともに研究開発をしていこうということで、新しい産業もおきてきているところで、そういつたわけで、持続的に発展していく地域を作っていくために、産業振興というものを力を入れて頑張つていこうというところでございます。

それから、なげ市町村合併なのかといった時

に、この地方自治をしていく中では税収が上がつていかない。国からの交付税や補助金が削減傾向である時に、将来展望した場合、近隣の町村から立ち行かなくなるという状況が予測できます。上越だけで単独で成り立っていくことは可能ですが、しかしながら、頸城平野は一体になっております。通学、ショッピング、それから施設の利用、病院利用率、そういったものすべてを見た場合、その周辺の町村の方々の存在を無視して、上越だけで成り立つというわけにはいかない状態となっております。

そういう意味では、遅かれ早かれ、立ち行かない状態がきた場合には、上越市にも影響は来るということ、むしろそういう状況なのであれば、先取りをして、体質強化・体質改善をしていこうかということで、私は提案をさせていただきます。

そういう意味では、皆様方をいつでもお迎えできるような、持続的に発展していく地域を、ぜひとも作つてまいりたいと思っております。先輩諸兄の皆様方におかれましては、陰に陽にお手伝いをしていただければありがたいと思っております。

ちょうどまた、皆さんの事業でまちづくりの提言支援活動をしていただいております。各種の委員会でも数多くの提言をいただいておりますけれども、ふるさとを離れてみるとその良さに気づくと言われておりますが、そういう中で、

今の二十一世紀の時代こそ、地域の特性・個性、これを活かしていく時代がきているのではないかと思っております。皆様方の貴重なご提言を、ぜひとも引き続きお願いをしてまいりたい、そしていつでも、皆様方に帰ってきていただけるふるさとが光り輝けるように、これからも誠心誠意、作らせていただきたい、こういうふうな思っている次第でございます。

最後に、このJネットのますますのご発展と、そして会員の皆様方のご健勝を心からお祈りを申し上げます。私の一言のご挨拶に代えさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

